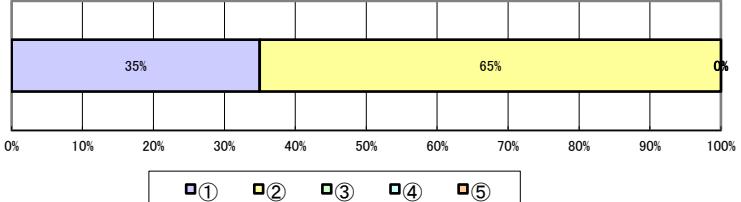
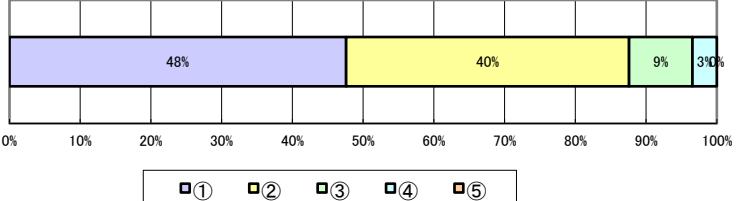
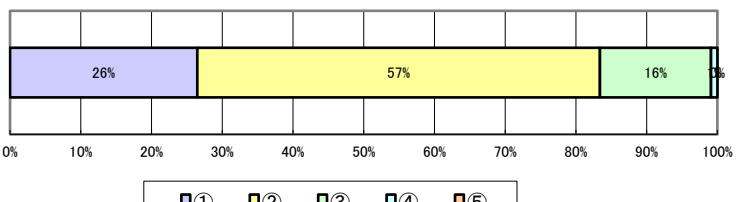
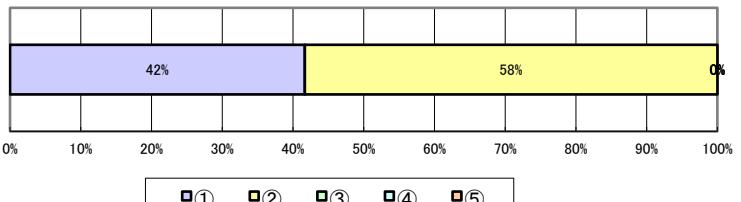


鶴ヶ島市立栄

小学校

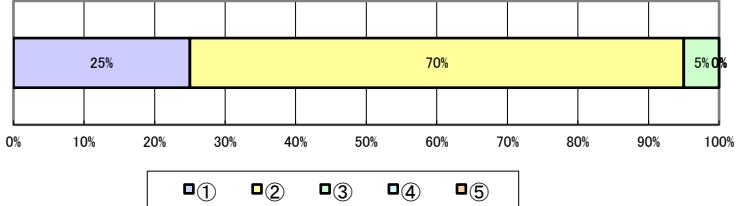
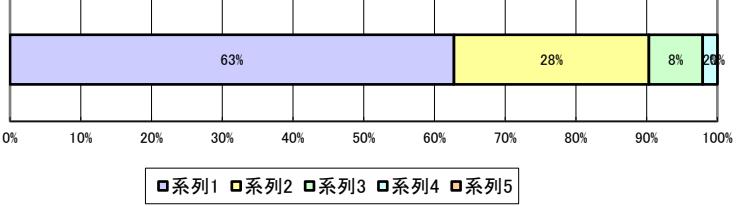
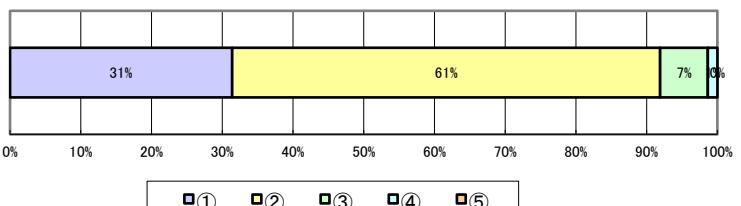
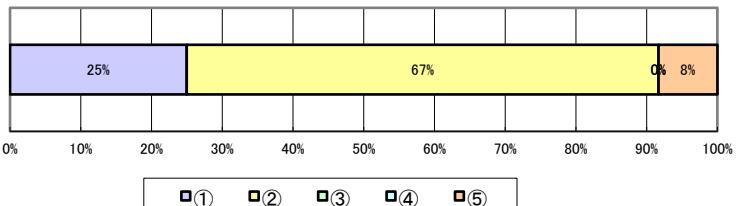
評価結果: ①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
 ④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察					
学校教育目標・教育方針	教職員	①私は、学校教育目標や教育方針を理解し、達成できるよう努めている。	 <table border="1"> <tr><td>①</td><td>②</td><td>③</td><td>④</td><td>⑤</td></tr> </table>	①	②	③	④	⑤	<p>評価結果についての分析・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> すべてのアンケート対象の8割以上が肯定的に捉えている。 校長がお話朝会や諸行事で学校のグランドデザインについてアナウンスすることで学校教育目標や教育方針を地域の方へも広められた。また、ホームページを通して児童の活動を紹介することができた。
①	②	③	④	⑤					
児童	①私は、学級目標や個人目標を達成するために努力している。	 <table border="1"> <tr><td>①</td><td>②</td><td>③</td><td>④</td><td>⑤</td></tr> </table>	①	②	③	④	⑤	<p>課題解決への方策</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後も諸行事や学校だより、C4th、ホームページを通して、保護者・地域の方に学校教育目標や教育方針を広めていく。 	
①	②	③	④	⑤					
保護者	①私は、学校教育目標や教育方針を知っている。	 <table border="1"> <tr><td>①</td><td>②</td><td>③</td><td>④</td><td>⑤</td></tr> </table>	①	②	③	④	⑤	<p>学校関係者評議会による評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 家庭・地域等に対して適切に提供し、信頼される学校づくりを行った結果だと思う。引き続きお願ひします。 栄っ子だよりで、学校教育目標や教育方針など知ることができている。 児童の皆さん、「努力している」の自己評価が高いことはよいと思う。 学校だよりの配付・回覧により保護者及び地域に発信している。これによって、保護者や地域が理解しているかは分からない。 地域の人達は既に子ども達を卒業させているので、理解していると答えていると思う。児童・保護者には更に知つてもらう努力が必要。 教職員の65%が「だいたいそう思う」と回答している。教育目標、教育方針が「個々の教職員の考え方」と異なるケースもあるとおもうが「だいたい」と回答した理由を検証し教職員が「そう思う」と回答できる教育目標、教育方針になっているか考える必要がある。 保護者のうち約20%が「あまりそう思わない」とする理由と前年など過去と比較して増減があるのかも調査が必要だと思う。 	
①	②	③	④	⑤					
地域	①私は、学校教育目標や教育方針を理解している。	 <table border="1"> <tr><td>①</td><td>②</td><td>③</td><td>④</td><td>⑤</td></tr> </table>	①	②	③	④	⑤		
①	②	③	④	⑤					

鶴ヶ島市立栄

小学校

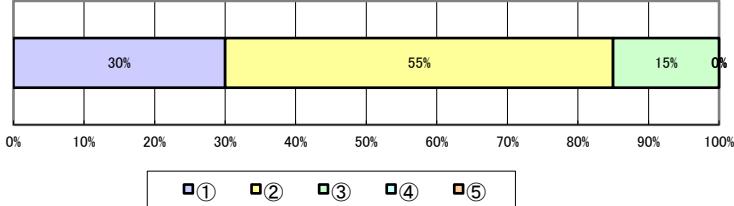
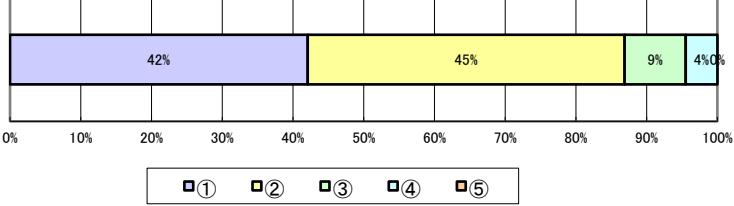
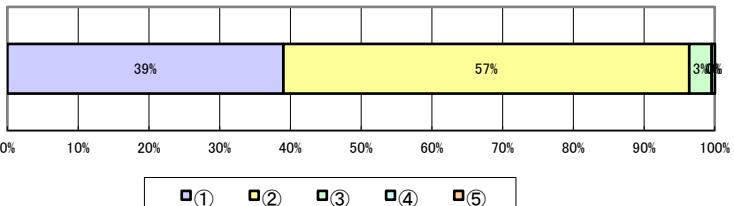
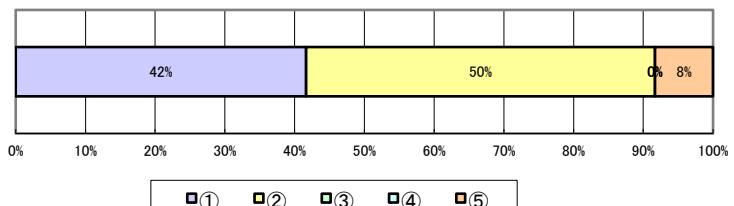
評価結果: ①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
 ④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察					
学級経営	教職員	②私は、児童のよさや可能性を発揮できる学級経営を行っている。	 <table border="1"> <tr><td>①</td><td>②</td><td>③</td><td>④</td><td>⑤</td></tr> </table>	①	②	③	④	⑤	<p>評価結果についての分析・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> すべてのアンケート対象の9割以上が肯定的に捉えている。 本年度の4月の懇談会ですべての学級が保護者の願いを募り、教職員と児童の願いを合わせた学級目標を作り上げた。 児童の「そう思う」の数値が高く、自己有用感を得られる活動ができている。
①	②	③	④	⑤					
児童	②私は、学級での生活が楽しいと感じている。	 <table border="1"> <tr><td>系列1</td><td>系列2</td><td>系列3</td><td>系列4</td><td>系列5</td></tr> </table>	系列1	系列2	系列3	系列4	系列5	<p>課題解決への方策</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員の「そう思う」の数値が児童ほど高くなく、学級経営の研修をさらに積み重ねる。 hyper-QUの研修に参加し、分析の仕方や日々の児童への働きかけを共有する。 	
系列1	系列2	系列3	系列4	系列5					
保護者	②学校は、児童のよさや可能性を発揮できる学級づくりをしている。	 <table border="1"> <tr><td>①</td><td>②</td><td>③</td><td>④</td><td>⑤</td></tr> </table>	①	②	③	④	⑤	<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 学級での生活が楽しいと感じている児童の皆さんのが6割を超え、だいたいそう思うも含めると9割に達していることは大変評価できると思う。 学校公開日での児童の様子は、授業中の意欲的な姿や休み時間の楽しそうな姿が見られた。 学校でできる限り児童個々に対応しようとしていると思う。 児童が楽しいと思えていることを大切に考え、児童優先の学級づくりを継続してほしい。 学校公開・授業参観・個別面談などを通して保護者等と協同している。 児童・保護者がよいと思っていればよしと考える。地域の人は⑤が多いのは関りが少ないものでやむを得ない。 子どもたちは、ほとんどが楽しく学校に行けているのであればよい事であるので、教職員のやりがいや自信をもっと目に見える形にする事も必要なかもしれません。 保護者の願いが必ずしも学級経営に寄与できるものでもないことを考えておく必要があると考えます。 「あまりそう思わない」と回答している教職員が5%存在している。たとえ小数であっても学級(学校)運営上大きな課題として捉え対策を講じるべきである。 保護者と児童の④の割合が同じなのは親子が同じように思っているのか気になります。 	
①	②	③	④	⑤					
地域	②学校は、児童のよさや可能性を発揮できる学級経営を行っている。	 <table border="1"> <tr><td>①</td><td>②</td><td>③</td><td>④</td><td>⑤</td></tr> </table>	①	②	③	④	⑤		
①	②	③	④	⑤					

鶴ヶ島市立栄

小学校

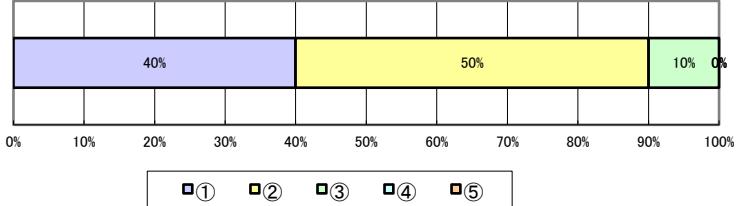
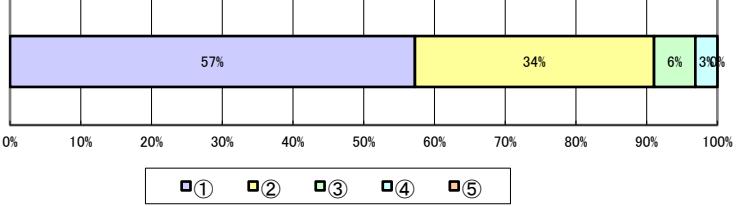
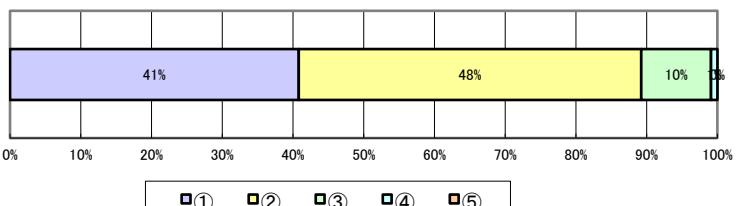
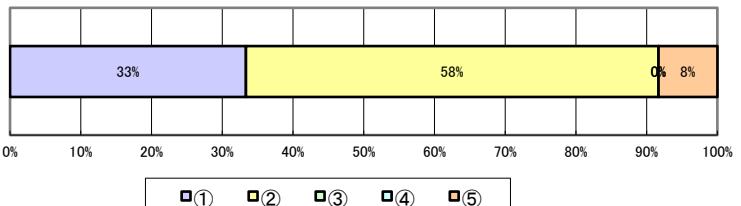
評価結果: ①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
 ④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察										
学習指導①	教職員	③私は、児童が意見を主体的に発表したり、他者の意見を聞いたりして学びを深める授業を実践している。	 <table border="1"> <tr><td>①</td><td>②</td><td>③</td><td>④</td><td>⑤</td></tr> <tr><td>30%</td><td>55%</td><td>15%</td><td>0%</td><td>0%</td></tr> </table>	①	②	③	④	⑤	30%	55%	15%	0%	0%	<p>評価結果についての分析・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> すべてのアンケート対象の8割5分以上が肯定的に捉えている。また、保護者・地域のアンケートでは9割以上が肯定的に捉えている。 学校課題研究で学び合い学習の授業改善について取り組み、チェックリストをもとに教職員と児童は日々の授業を振り返ることができた。
①	②	③	④	⑤										
30%	55%	15%	0%	0%										
児童	③私は、自分の意見を発表したり、友達の意見を聞いたりして、いろいろな考えにふれながら勉強している。	 <table border="1"> <tr><td>①</td><td>②</td><td>③</td><td>④</td><td>⑤</td></tr> <tr><td>42%</td><td>45%</td><td>9%</td><td>4%</td><td>0%</td></tr> </table>	①	②	③	④	⑤	42%	45%	9%	4%	0%	<p>課題解決への方策</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員においては引き続き授業力向上を図るための研究授業や研修を計画的に行う。 公開日や行事のときにたくさんの方が来校できるよう呼びかけ、児童の活動を見ていただく。 	
①	②	③	④	⑤										
42%	45%	9%	4%	0%										
保護者	③学校は、児童が自分の意見を発表したり、友達の意見を聞いたりして、いろいろな考えにふれる授業をしている。	 <table border="1"> <tr><td>①</td><td>②</td><td>③</td><td>④</td><td>⑤</td></tr> <tr><td>39%</td><td>57%</td><td>3%</td><td>0%</td><td>0%</td></tr> </table>	①	②	③	④	⑤	39%	57%	3%	0%	0%	<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 先生がいろいろ工夫して児童の個性を引き出し伸ばす授業をしている。 いろいろな考えに触れる機会はとても大切なのでこれからもそういう授業を継続してほしい。 現在の取組を継続してほしい。 児童に意見発表の機会を与えて、児童も積極的に発表している。 	
①	②	③	④	⑤										
39%	57%	3%	0%	0%										
地域	③学校は、児童が自分の意見を発表したり、友達の意見を聞いたりして、いろいろな考えにふれる授業をしている。	 <table border="1"> <tr><td>①</td><td>②</td><td>③</td><td>④</td><td>⑤</td></tr> <tr><td>42%</td><td>50%</td><td>0%</td><td>8%</td><td>0%</td></tr> </table>	①	②	③	④	⑤	42%	50%	0%	8%	0%	<ul style="list-style-type: none"> 15%程の教職員・児童が「あまりそう思わない」「そう思わない」と回答している。アンケートの回答割合のみで判断することはできないが、問題点を明確にし重要な課題として取り組んでほしい。 	
①	②	③	④	⑤										
42%	50%	0%	8%	0%										

鶴ヶ島市立栄

小学校

評価結果: ①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
 ④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察					
学習指導②	教職員	④私は、学習目標達成のために学習用端末や大型モニタ等のICT機器を活用して、わかりやすく工夫した授業を行っている。	 <table border="1"> <tr> <td>□①</td> <td>□②</td> <td>□③</td> <td>□④</td> <td>□⑤</td> </tr> </table>	□①	□②	□③	□④	□⑤	<p>評価結果についての分析・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> すべてのアンケート対象の9割程度が肯定的に捉えている。 学習目標を達成するために視覚的に有効な場合は大型モニターを活用している。 児童はオクリンクやジャムボード、ドリルパークに進んで取り組むことができる。 情報リテラシーに課題がある。
□①	□②	□③	□④	□⑤					
児童	④私は、授業で学習用端末を使って、考えを深めたり広げたりして、積極的に授業に参加している。	 <table border="1"> <tr> <td>□①</td> <td>□②</td> <td>□③</td> <td>□④</td> <td>□⑤</td> </tr> </table>	□①	□②	□③	□④	□⑤	<p>課題解決への方策</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業だけでなく宿題も含め学習用端末の効率的な活用を行う。 低学年からタイピングを取り入れ、ローマ字で文字が打てるよう取り組んでいる。 今後はタブレットとノートのハイブリッドも考え、発表の仕方や提出の仕方を考えいくことも必要である。 外部講師を招いて、情報リテラシー教育を中学年から行う。 	
□①	□②	□③	□④	□⑤					
保護者	④学校は、授業で学習用端末を使って、考えを深めたり広げたりする、授業を行っている。	 <table border="1"> <tr> <td>□①</td> <td>□②</td> <td>□③</td> <td>□④</td> <td>□⑤</td> </tr> </table>	□①	□②	□③	□④	□⑤	<p>学校関係者評議会による評価</p> <ul style="list-style-type: none"> タブレットを活用した授業など1年生でも分かりやすく工夫して取り組めていた。 タブレットを使って効果的な授業を行っている。 ICTを使いこなし学習に活用できるよう学び始めていると思う。 今後はAIを取り入れた授業も必要になると思われます。教職員も現在、ICT機器をもっと活用したいと思っている方もいると思います。外部の力をもっと活用すべきですが、子どもに負けないように研修等も必要なのは。 現在の取組を継続してほしい。 学習用端末の効用については大局的見地から判断して子ども達の教育に利用してもらいたい。 教職員・児童の「あまりそう思わない」「そう思わない」という10%程度の回答を得て情報リテラシーに課題があることを明確に示している。 	
□①	□②	□③	□④	□⑤					
地域	④学校は、授業で学習用端末を使って、考えを深めたり広げたりする、授業を行っている。	 <table border="1"> <tr> <td>□①</td> <td>□②</td> <td>□③</td> <td>□④</td> <td>□⑤</td> </tr> </table>	□①	□②	□③	□④	□⑤		
□①	□②	□③	□④	□⑤					

鶴ヶ島市立栄

小学校

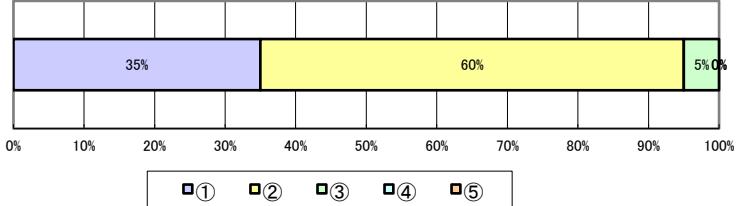
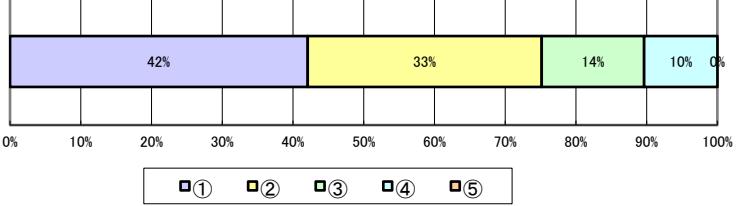
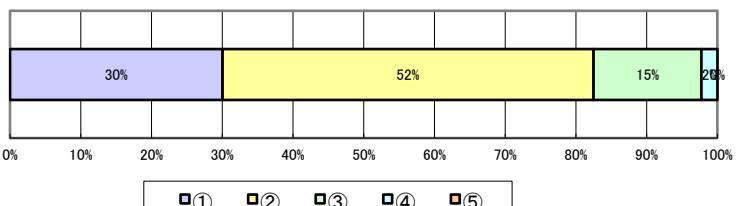
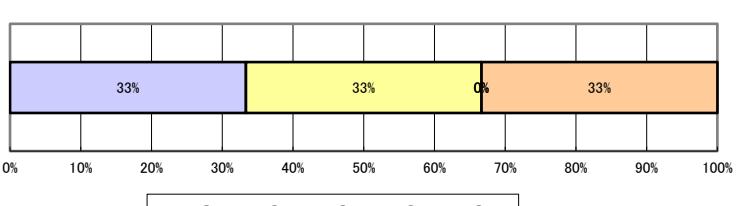
評価結果: ①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
 ④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察										
体力	教職員	⑤私(学校)は、体育の授業を中心として、体育的行事の充実や運動機会の確保に努め、児童の体力向上を図っている。	<table border="1"> <tr><td>①</td><td>②</td><td>③</td><td>④</td><td>⑤</td></tr> <tr><td>35%</td><td>65%</td><td>0%</td><td>0%</td><td>0%</td></tr> </table>	①	②	③	④	⑤	35%	65%	0%	0%	0%	<p>評価結果についての分析・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員のアンケートでは肯定的に捉えられているが、児童のアンケートでは4人に1人が体力をつけようと努力できていないことがわかる。
①	②	③	④	⑤										
35%	65%	0%	0%	0%										
児童	⑤私は、体育や休み時間に、校庭や体育館などいろいろな運動をして、体力をつけようと努力している。	<table border="1"> <tr><td>①</td><td>②</td><td>③</td><td>④</td><td>⑤</td></tr> <tr><td>50%</td><td>25%</td><td>18%</td><td>7%</td><td>0%</td></tr> </table>	①	②	③	④	⑤	50%	25%	18%	7%	0%	<p>課題解決への方策</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業時の運動量の確保や業前・休み時間の外遊びの励行を行う。 運動機会の確保や体力の向上につながる体育的行事の見直しを行う。 	
①	②	③	④	⑤										
50%	25%	18%	7%	0%										
保護者	⑤学校は、体育の授業を中心として、体育的行事の充実や運動機会の確保に努め、児童の体力向上を図っている。	<table border="1"> <tr><td>①</td><td>②</td><td>③</td><td>④</td><td>⑤</td></tr> <tr><td>26%</td><td>56%</td><td>17%</td><td>0%</td><td>0%</td></tr> </table>	①	②	③	④	⑤	26%	56%	17%	0%	0%	<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 運動会でのまとまった応援合戦の様子や、生き生きと体を動かす姿が見られた。 グラウンドで楽しく授業を行っているのを見かける。 授業の中だけでは限界があると思う。放課後、外遊びしている子どもも見かけない。鬼ごっこなど外で走り回るイベントを学童保育や地域と連携し、実施してはどうか。 楽しみながら体を動かすこと、自信をつけること、どちらも苦手意識のある子には難しい。その子なりにがんばった所を評価してあげたい。地域で力になれることを考えたい。 	
①	②	③	④	⑤										
26%	56%	17%	0%	0%										
地域	⑤学校は、体育の授業を中心として、体育的行事の充実や運動機会の確保に努め、児童の体力向上を図っている。	<table border="1"> <tr><td>①</td><td>②</td><td>③</td><td>④</td><td>⑤</td></tr> <tr><td>42%</td><td>42%</td><td>8%</td><td>0%</td><td>8%</td></tr> </table>	①	②	③	④	⑤	42%	42%	8%	0%	8%	<ul style="list-style-type: none"> 児童の4人に1人が努力できていない自分を捉えている。中には、運動の苦手さを感じて自分の評価が低くなっている可能性はあるかもしれない。 外遊びの機会が多く、体力向上を図っていると思われる。児童は体力差が大きいので考慮が必要であるが児童はがんばっていると思っている。 知力は体力と気力によって支えられていることは折に触れて学んでほしい。気力と知力のもとにある体力があればそれよし。 	
①	②	③	④	⑤										
42%	42%	8%	0%	8%										

鶴ヶ島市立栄

小学校

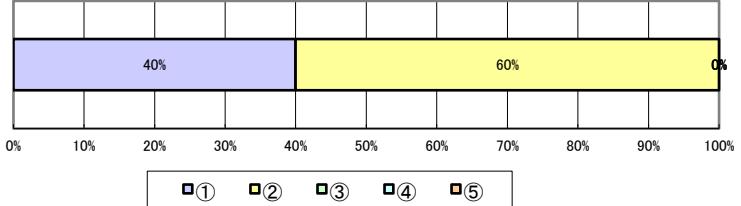
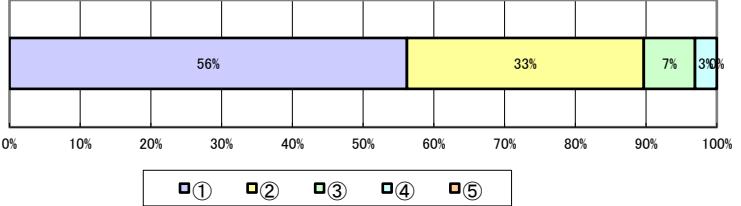
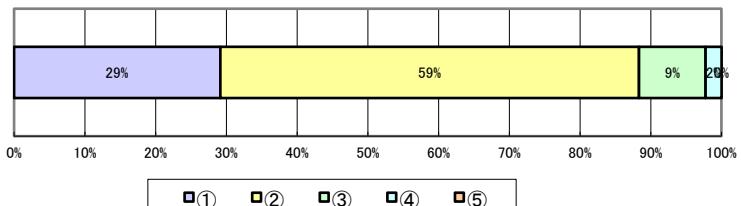
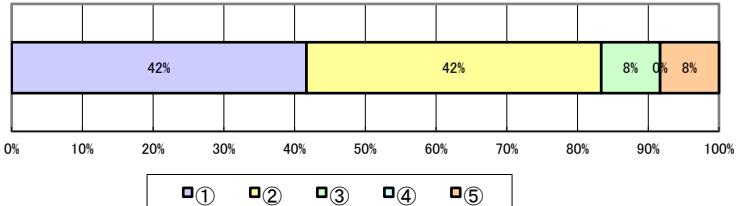
評価結果: ①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
 ④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察					
生 徒 指 導 ①	教職員	⑥私は、児童の生徒指導上の課題等に対して、組織的に、家庭と連携・協力しながら対応している。	 <table border="1"> <tr> <td>■①</td> <td>■②</td> <td>■③</td> <td>■④</td> <td>■⑤</td> </tr> </table>	■①	■②	■③	■④	■⑤	<p>評価結果についての分析・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童、保護者のアンケートから「あまりそう思わない」「そう思わない」の数値が2割程度である。 個別に課題を抱えている児童に対する指導を粘り強くしていく必要がある。
■①	■②	■③	■④	■⑤					
児童	⑥私は、いじめやトラブルなどの問題に対して、先生やおうちの人相談し、一緒に解決しようとしている。	 <table border="1"> <tr> <td>■①</td> <td>■②</td> <td>■③</td> <td>■④</td> <td>■⑤</td> </tr> </table>	■①	■②	■③	■④	■⑤	<p>課題解決への方策</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員全員が共通理解に基づいた一貫した指導を進める。生徒指導委員会やケース会議を通して早期対応、全体周知を徹底する。 家庭との連携を深め、問題の早期発見、早期解決を行う。 	
■①	■②	■③	■④	■⑤					
保護者	⑥学校は、いじめやトラブルなどの問題に対して、組織的に、家庭等と連携・協力しながら対応している。	 <table border="1"> <tr> <td>■①</td> <td>■②</td> <td>■③</td> <td>■④</td> <td>■⑤</td> </tr> </table>	■①	■②	■③	■④	■⑤	<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 家庭環境が大きな課題だと思う。学校だけではなく民生委員や児童カウンセラー、市役所の児童福祉担当と今後も協力していただきたい。 PTA(保護者)と連携して対応していると思う。 個々の教職員の負担がとても重いと感じる。教職員を組織的に支援する体制を整えることが重要である。 	
■①	■②	■③	■④	■⑤					
地域	⑥学校は、児童の生徒指導上の課題等に対して、組織的に、家庭等と連携・協力しながら対応している。	 <table border="1"> <tr> <td>■①</td> <td>■②</td> <td>■③</td> <td>■④</td> <td>■⑤</td> </tr> </table>	■①	■②	■③	■④	■⑤	<ul style="list-style-type: none"> 家庭との連携は必要なことだがあまり踏み込む必要はなく家庭教育の大切さ(学校教育とはまた別ものであること)を周知させたい。 学校の中だけで解決しがちなので地域にはあまり見えてきません。予防的なかかわり方ができるとよいと思います。 	
■①	■②	■③	■④	■⑤					

鶴ヶ島市立栄

小学校

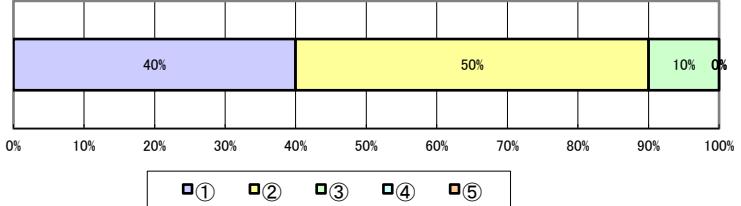
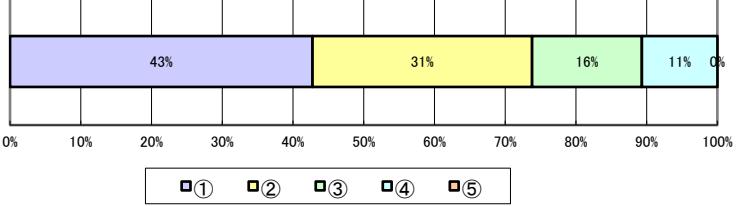
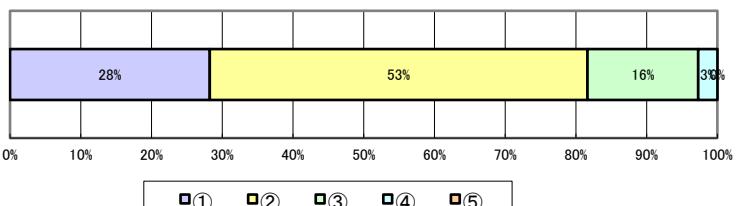
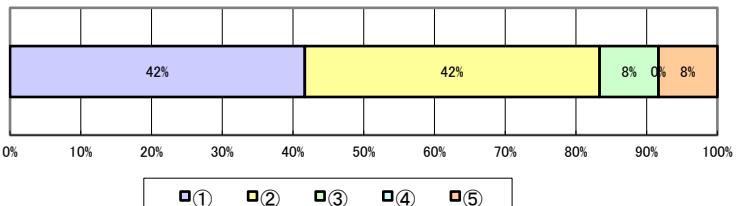
評価結果: ①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
 ④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
生徒指導②	教職員	⑦私は、児童のよさや可能性の伸長を図り、成長やつまずき、悩み等の理解に努めている。	 40% 60% 0%	評価結果についての分析・課題 <ul style="list-style-type: none"> すべてのアンケート対象の9割程度が肯定的に捉えている。特に児童の「そう思う」の数値が6割程度あり、学級目標や学期の目標、生活目標に向かって日々行動していることがわかる。
	児童	⑦私は、自分のよさや可能性を伸ばしたり、友達との関わりを大切にしながら、自分の目標に向かって行動したりしている。	 56% 33% 7% 3%	課題解決への方策 <ul style="list-style-type: none"> 校長と高学年児童の面談を行い、自分のよさや学校のよさを自覚する機会とする。 hyper-QUの分析を行い、一人一人の内面を知る。特に要支援児童への面談や声かけを行う。 学校生活アンケートを年に5回実施し、教職員や家庭と連携する。
	保護者	⑦学校は、児童のよさや可能性の伸長を図り、成長やつまずき、悩み等の理解に努めている。	 29% 59% 9% 2%	学校関係者評価委員会による評価 <ul style="list-style-type: none"> 児童の6割近くが「そう思う」と評価していることはばらしいと思う。 学校たよりで拝見して、校長先生をはじめ学校全体が児童のことをよく把握していると思う。 現在の取組を継続してほしい。 先生は皆、児童のよさを伸長する努力をしていると思う。児童を「ほめる」ことを多くしている。
	地域	⑦学校は、児童のよさや可能性の伸長を図り、成長やつまずき、悩み等の理解に努めている。	 42% 42% 8% 0% 8%	

鶴ヶ島市立栄

小学校

評価結果: ①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
 ④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察					
特別支援教育	教職員	⑧私は、一人一人の特性の理解に努め、家庭と連携・協力しながら道具や工夫を取り入れ、個に応じた指導方法を積極的に取り入れている。	 <table border="1"> <tr><td>①</td><td>②</td><td>③</td><td>④</td><td>⑤</td></tr> </table>	①	②	③	④	⑤	<p>評価結果についての分析・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童のアンケートから「あまりそう思わない」「そう思わない」の数値が3割程度であり、苦手なことや困ったことを相談できない児童が3人に1人いる。
①	②	③	④	⑤					
児童	⑧私は、苦手なことなどを、先生やおうちの人と相談し、一緒に解決しようとしている。	 <table border="1"> <tr><td>①</td><td>②</td><td>③</td><td>④</td><td>⑤</td></tr> </table>	①	②	③	④	⑤	<p>課題解決への方策</p> <ul style="list-style-type: none"> 日頃から児童と会話をすることを心掛ける。また、健康観察時に表情をよく観察する。 個別最適な学びと協働的な学びを取り入れた授業改善を行う。 	
①	②	③	④	⑤					
保護者	⑧学校は、一人一人の特性の理解に努め、家庭と連携・協力しながら道具や工夫を取り入れ、個に応じた指導方法を積極的に取り入れている。	 <table border="1"> <tr><td>①</td><td>②</td><td>③</td><td>④</td><td>⑤</td></tr> </table>	①	②	③	④	⑤	<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 子ども達が、笑顔で学校に通う、授業を受けている姿に一人一人を大切に受け入れ、個々に合わせた指導が行われているを感じます。 学校公開・授業参観の機会に家庭との連携・協力や工夫して授業を行っていることが分かった。 苦手なこと、困ったことを相談できない児童の3人に1人について「なぜ、相談できないか?」を個々に見つめてあげられるといよいよと思う。 難しい問題である。現在の取組を継続してほしい。 児童の多くは先生を慕っている。ほめて育てることを強く推進する。 苦手なことや困ったことを相談できない児童が3割程度いること。個に応じた指導方法を積極的に取り入れているかの質問に「あまりそう思わない」と答えた教職員が10%いることを踏まえ課題解決への方策について明確な「目標」を示して取り組むべきではないか。 児童の70%以上が先生や親に相談できている。友達に相談しているケースもあるのでしょうか。親ももっと教職員と協力したいと思っているような気もします。 	
①	②	③	④	⑤					
地域	⑧学校は、一人一人の特性の理解に努め、家庭と連携・協力しながら道具や工夫を取り入れ、個に応じた指導方法を積極的に取り入れている。	 <table border="1"> <tr><td>①</td><td>②</td><td>③</td><td>④</td><td>⑤</td></tr> </table>	①	②	③	④	⑤		
①	②	③	④	⑤					

鶴ヶ島市立栄

小学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察					
地域とともにある学校	教職員	⑨私は、学校運営協議会・学校応援団の意義や保護者・地域等との活動の重要性を理解し、地域とともにある学校づくりに努めている。	<table border="1"> <tr> <td>①</td> <td>②</td> <td>③</td> <td>④</td> <td>⑤</td> </tr> </table>	①	②	③	④	⑤	<p>評価結果についての分析・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者のアンケートから「あまりそう思わない」の数値が2割程度あることから十分に周知されていない。
①	②	③	④	⑤					
児童			<p>課題解決への方策</p> <ul style="list-style-type: none"> 読み聞かせやミシンボランティアをはじめ、学校応援団の方に協力していただいていることを学校だよりやホームページで知らせる。 学校運営協議会の開催を学校だよりで知らせ、議事録をホームページに掲載する。 						
保護者	⑨私は、学校運営協議会・学校応援団の意義や保護者・地域等との活動の重要性を理解し、地域とともにある学校づくりに協力している。	<table border="1"> <tr> <td>①</td> <td>②</td> <td>③</td> <td>④</td> <td>⑤</td> </tr> </table>	①	②	③	④	⑤	<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後も学校と地域の関係がよりよいものとなるよう努めていこうと思う。 地域の大人も一緒に、子ども達を育てているんだという意識が大切。 すばらしい取組である。現在の取組を継続してほしい。 学校運営協議会の傍聴や意見等の提出等がなく、保護者や地域の関心が感じられないのが残念である。 学校は努力していると思う。高齢化する地域住民に多くを期待することは無理がある。 地域と学校の実情を把握し相互に連携・協力するための調整役(コーディネーター等)が必要と感じる。 保護者の地域との関わりを深めることが一義である。 担い手不足が心配です。PTAが機能しなくなるとますます地域連携しにくく先生の負担が増えてしまいます。何ができるか今はわかりませんが。 	
①	②	③	④	⑤					
地域	⑨私は、学校運営協議会・学校応援団の意義や保護者・地域等との活動の重要性を理解し、地域とともにある学校づくりに努めている。	<table border="1"> <tr> <td>①</td> <td>②</td> <td>③</td> <td>④</td> <td>⑤</td> </tr> </table>	①	②	③	④	⑤		
①	②	③	④	⑤					

鶴ヶ島市立栄

小学校

評価結果:①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
 ④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察										
働き方改革	教職員	⑩私は、働き方改革の目的を理解し、業務改善を進め、心身ともに健康であるよう努めながら、教科指導や教育相談等に係る時間を増やし、教育の維持・向上に努めている。	<table border="1"> <tr> <td>①</td> <td>②</td> <td>③</td> <td>④</td> <td>⑤</td> </tr> <tr> <td>35%</td> <td>40%</td> <td>25%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> </table>	①	②	③	④	⑤	35%	40%	25%	0%	0%	<p>評価結果についての分析・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 4人に1人は「あまり思わない」と感じている。 校務分掌等により業務量が偏っているため負担を感じている教職員への対応・対策が必要である。
①	②	③	④	⑤										
35%	40%	25%	0%	0%										
児童			<p>課題解決への方策</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員の意識改革とともに業務の精選、偏りのない校務分掌。 業務終了時刻を自分で日々意識して、仕事を分担して、負担に捉えてしまうものが少しでも減るようにしていく。 業務内容を精選し、優先順位をつけて行う。 											
保護者			<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 様々な課題をもった児童への対応また保護者対応など、一人ひとりと向き合い丁寧な対応を心がけるとなると負担は大きいだろうと推測されます。 登校時間が集中し、教師・児童の負担が軽減している。教師の負担を軽減することは大いに賛成であるが「いじめ」がなくなるよう目を光らせて観察に手抜きがないようにしてほしい。 教職員が疲弊しないよう教育委員会や地域と連携し、業務分担を行う必要がある。 文科省・県及び市教委の取り組むべき課題であるが教職員自らの工夫も必要だと思う。重要性のない仕事は思い切って削減するとともに積極的に働き方改革について意見発信すべきと思います。 											
地域														